

3. パネルディスカッション 2

(1) 話題提供 1 : 新庄中学校生徒発表『『新庄地震学』で学んだこと』

- 1.これから新庄地震学の発表を始めたいと思います。田辺市立新庄中学校の6名です。
- 2.私たちの住む田辺市は和歌山県の南の方にあり、近年、地震が起こるといわれている南海トラフから近い場所にあります。
- 3.田辺市の中でも私たちの学校がある新庄町は、田辺湾に面しており、過去に幾度となく津波被害を受けてきました。
- 4.過去の津波被害を調べてみると、1707年の宝永地震では高さ約12mの津波被害を受けた記録が残っています。また、その後も1854年の安政南海地震、1946年の昭和南海地震と約100年から150年周期で大地震と津波の被害を受けてきました。
- 5.新庄公民館に昭和南海地震のときの写真が残っています。これは津波によって浸水している新庄駅付近です。
- 6.津波が引いたあと大きな船が陸に残されています。
- 7.これは地域の神社の前の道で津波によって瓦礫が散乱し、道が通れなくなっています。
- 8.このような歴史があり過去の教訓に学ぶ、津波・地震の正しい知識を得る、今できる防災について考える、地震が起こったときの正しい行動を学ぶ、学んだ知識をまわりに広めるために平成13年に新庄地震学がスタートしました。
- 9.現在は3年生の総合的な学習の時間に各教科のグループに分かれて防災に関連したテーマを決めて学習し、毎年11月に地域の方を招いて発表しています。これまでに先輩たちが取り組んだ内容を紹介します。
- 10.15年間の間に防災に関する制作物をたくさんつくってきました。資料の左上の写真は防災マップの立体模型、右上の写真は新しい津波想定での防災マップです。左下の写真は防災横断幕です。新庄中学校は地域からよく見える場所に建っているので校舎の3階にこの横断幕を掲げ防災を啓発しました。右側は普段はベンチとして使用し、災害時はかまどとして使用できるかまどベンチです。滋賀県の彦根工業高校に教えてもらい、中庭に二つつくりました。
- 11.また防災のカルタや、紙芝居、ダンスや替え歌をつくって幼稚園や小学校との交流を続けてきました。非常時の発電方法の研究で田辺工業高校にも協力してもらいました。



過去の津波被害について

1707年 宝永地震	M8.6 津波の高さ約12m
1854年 安政南海地震	M8.4 津波の高さ約8m
1946年 昭和南海地震	M8.0 津波の高さ約4m

田辺市死者・行方不明者46名
新庄地区の死者・行方不明者26名

津波に対する油断・認識不足が生死を分ける!

- ・過去の教訓に学ぶ
- ・津波、地震の正しい知識を得る
- ・今できる防災について考える
- ・地震が起こったときの正しい行動を学ぶ
- ・学んだ知識をまわりに広める

平成13年 新庄地震学スタート

総合的な学習の時間(週1時間)
教科と関連つけた防災学習
毎年11月の地震学発表会
学んだ情報・成果は学校・地域で共有
新庄中学校の伝統
今年で15年目

これまでの新庄地震学の取り組み
幼稚園・小学校・高校との連携

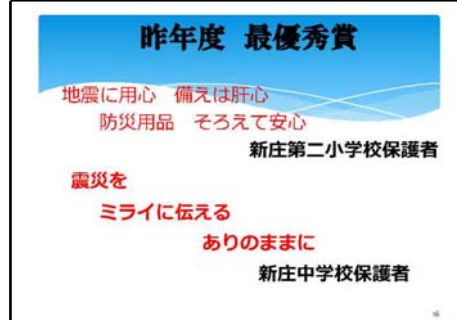
歌とダンスで防災学習 防災カルタ
防災紙芝居 工業高校と発電研究

- 12.地域の方にもたくさん協力していただきました。昭和南海地震を経験された方から、当時の様子を教えていただいたり、未来に残せるように『語り部』DVDを制作しました。左下の写真は安否札とって災害が起こったときに避難する前に玄関のドアにかけておき、あとで探しにきた人に避難先などを知らせるものです。釜石東中学校の生徒さんが考えたものを参考にして1000枚つくり、地域の敬老会でお配りしました。地震学発表の日は、地域の方に毎年かまどベンチを使って炊き出しをしていただいています。
- 13.今年度の地震学のテーマは「ひろげる～人、地域、未来～」です。自分たちの学んできたことを地域の人や全国の人たちに広げていきたいと思いこのテーマになりました。
- 14.これは本年度の内容です。今年度は10教科のグループにわかれて取り組んでいます。各教科の取り組みを説明します。
- 15.国語班は中学校だけでなく、保護者や小学校、高校から「防災標語」を募集し、その中の優秀な作品を地震学発表会で表彰し、広めていきます。
- 16.これは昨年度の最優秀賞の作品です。一つ目は「地震に用心 備えは肝心 防災用品 そろえて安心」、二つ目は「震災を ミライに伝える ありのままに」です。どちらも防災に関心のある作品です。
- 17.この他にも国語班は美術班と協力して日めくりカレンダーを制作しています。この写真はそこに載せる標語を選んでいるところです。
- 18.社会班の取り組みです。社会班では過去の津波被害の写真の場所を特定し、現在の写真と比べることでいま、必要な防災を考えています。
- 19.資料の写真のように過去の写真と比べています。そして、その場所がどのくらい被害を受けていたか、またその場所から避難場所までかかる時間を実際に歩いて調べています。
- 20.数学班の取り組みです。数学班は昨年度に続き、避難所目印として、また防災の意識向上のために凧を制作しています。
- 21.まだ制作途中ですが、出来上がったなら小学校に出前授業に行き、一緒に凧を飛ばす予定です。
- 22.資料の左側の写真は一昨年の凧で、畳10畳の大きさでした。右側の写真の凧は去年の凧で、防災で交流した東京の高校生にデザインしてもらいました。



今年度の地震学の内容

1	国語	防災標語
2	社会	過去と現在の対比
3	数学	凧を使って情報伝達
4	理科	地震と津波のメカニズム
5	英語	英語カルタ
6	美術	新庄地震学カレンダーの制作
7	家庭	非常食・ソーラークッキング
8	技術	ホームページ制作
9	保健・体育	避難所運営
10	音楽	歌とダンスの防災教育



- 23.理科班です。理科班は防災に関連した実験を行い、地震や津波のメカニズムを学びます。また、昨年に引き続き、福島県の「ひまわり里親プロジェクト」に参加します。
- 24.ひまわりの種を植えて育てたり、地震の波が伝わる様子がわかる実験器具などを制作中です。
- 25.英語班の取り組みです。英語班は、防災英語カルタの制作をしています。
- 26.制作したカルタを持って小学校へ行き、英語を学びながら防災について小学生と交流する予定です。
- 27.美術班の取り組みです。美術班は防災カレンダーで地震や津波の危機管理対応や、各班の取り組みを紹介しています。また、今年度は日めくりカレンダーもつくりたいと考えています。
- 28.資料の写真は今までの防災カレンダーです。毎年保護者や地域の方にお配りしています。
- 29.家庭班の取り組みです。家庭班は災害時ライフラインが止まったときの非常食や太陽光を使った調理法を調べています。
- 30.新庄中学校には資料の写真の右下の災害用移動炊飯器のような防災グッズが置いてある倉庫があり、その中のものを活用できるクッキング方法を調べています。
- 31.技術班の取り組みです。今年のテーマが「ひろげる」ということから技術班は、新庄地震学を多くの人たちに知ってもらうため、伝えるためにホームページやラジオ番組の制作をしています。
- 32.ホームページへ各教科の取り組みを載せるため、他の班へ取材をしています。
- 33.保健体育班の取り組みです。保健体育班は、学校が避難所になったときの運営マニュアルなどの見直しをしています。
- 34.その他にも小学生向けの災害クロスロードゲームをつくっています。クロスロードゲームというのは、災害が起こったときにどう対応するかを YES、NO で考える京都大学の先生が考えたゲームです。出来上がったら小学校へ出前授業に行く予定です。
- 35.音楽班の取り組みです。音楽班は前年度に続き、災害用伝言ダイヤル 171 を踊ります。また、創作ダンスを用いて小学校などで出前授業を行う予定です。



36.今年の創作ダンスでは和歌山に関する曲ということで紀南 JA に許可をいただいて紀州うめみかソングで替え歌とダンスを作っています。それぞれの班が、11月の発表会に向けて夏休みにも集まって取り組んでいます。今年地震学発表会は11月22日の予定ですので、お時間がありましたらぜひお越しください。

37.4年前の2011年3月11日東日本大震災の当日、田辺市にも大津波警報が発表され新庄中学校は避難所となり、地域から200名を超える方々が避難して来られました。

38.その中で新庄地震学に取り組んでいた私たちの先輩は、避難してきた方々にお茶や椅子を出したり非常食や毛布を配布するなどの大きな働きをしました。

39.また、生徒会の自主的な呼び掛けで新庄中学校、新庄小学校、新庄第二小学校で合同募金活動を行いました。

40.そして今年は4月25日にネパールで大地震が発生し、大きな被害が出ました。

41.新庄中学校は昨年東京で行われた全国防災会議でネパールの高校生と交流をしたこともあったので、生徒会で募金活動を始めました。

42.まず、校内で2週間募金活動を行い、その後、全校に呼び掛け校区内のグルメシティで行いました。そして翌日、一緒に全国防災会議に参加した高雄中学校、東陽中学校、明洋中学校に呼び掛け4校合同でオーシェイで募金活動を行いました。募金で集まったお金は紀伊民報さんを通じて、日本赤十字社に届けていただきました。

43.昭和南海地震から今年で69年目になり、今後30年のうちに南海トラフ地震が起こる可能性が高いと言われています。新庄地震学に取り組むことで私たちは今以上に防災への意識を高めていきたいと思います。そして、先輩たちがつくってきた新庄地震学をしっかり引き継いでいきたいです。また、今年のテーマにもあるように学んだことを多くの人に広げていきたいと思います。

